都市計画

UDC：711.4

新しい世界を創造する　–戦間期ヨーロッパの建築とコミュニティ–

Rajesh Heynickx and Tom Avermaete：Making a New World -Architecture & Communities in Interwar Europe-［Leuven University Press, 2012, 256p.］

――抄録者註

たとえば、田園都市論（1898）や近隣住区論（1924）において、中世ヨーロッパの村落コミュニティが模範とされたことは、教科書的にはよく知られている。本書は、ちょうどこれらの理論がヨーロッパに普及し、第一次大戦後の復興のために広く適用されようとしていた、いわゆる戦間期（1919-1939）のコミュニティづくりの事例を紹介するものである。著者は総勢16名からなるが、編著者のラジェッシュ・ヘイニックス（Rajesh Heynickx：アントワープ大学）とトム・アヴェルマエト（Tom Avermaete：デルフト工科大学）を始め、気鋭の都市計画史研究者が2006年から実施してきた国際会議の成果をとりまとめたものである。とりわけアヴェルマエトは、著書『もうひとつの近代（Another Modern）』に代表されるように、近代都市計画史をフランスだけでなくモロッコやアルジェリア等の旧植民地での実践も踏まえて再構築していく、若手の旗手の一人である。

16編の論考は、イギリス、ドイツ、フランス、ベルギー、オランダ、ポーランド等でなされた住宅や施設、景観等の多岐に渡る計画を扱っている。しかし、全編に通底する問題意識は幾多の議論を経て共有されたものであり、日本ではほとんど知られていないような個別事例が豊富な図版とともに具体的に報告されている。コミュニティというプリズムが様々な角度から人間と空間の関わり方を照射することで見えてくるのは、束の間の戦後における自由と平和の雰囲気に基づく、新しい社会を求める活気である。レ＝マットにおける子供達の事例は、第二次大戦後に標準化と大量生産の中で見失われていった「実践」を的確にとらえている。コミュニティは理念ではなく実践の中から生まれるものだと、本書は語ってやまない。

――抄録

本書は、両大戦間期の20年間（1919-1939）に光を当て、大戦後のヨーロッパにおけるコミュニティの喪失と回復を描いた、16編の物語からなるオムニバスであり、EXEGESIS（解釈）、EXPERIENCE（経験）、EXPECTATION（希望）、IMAGINATION（想像）の4部構成からなる。生産の機械化や行政の組織化の中での人間の孤立を背景とした、中世へのノスタルジーに留まらない、近代化の現実を踏まえたコミュニティの回復と新しい世界の創造に向けた様々な試みを紹介する。

EXEGESISの部では、伝統的な枠組みであるゲマインシャフト（コミュニティ）とゲゼルシャフト（近代社会）の再解釈を通じて、それらが一方的な発展段階ではなくむしろ相補的な概念であることを検証する。例えばドゥアンヌ（Michiel Dehaene）は、小説家ロベルト・ムージルとパトリック・ゲデスに共通するのは変化する世界を「読む（to read）」という方法論であったと指摘しながら、都市組織とコミュニティの相補性を検討している。またEXPERIENCEの部において、コールラウシュ（Martin Kohlrausch）は、CIAMの建築家とワルシャワ住宅公社により提供されたプレファブ集合住宅「ガラスの家」において、住むことを通じたポーランド人の新しいアイデンティティの醸成が目指されていたことを報告している。

EXPECTATIONの部では、アヴェルマエトが国内植民地レ＝マットの林間学校「コロニー・ドゥ・ヴァカンス」に送り込まれた子供達の遊びをとりあげる。遊びとはルールに則って行われるがゆえに人間社会の本質を示すというホイジンガの説の実践である。革新市政の意を反映し、既成のいかなる空間理念とも無縁となるよう、宿舎は建築的表現を抑制、ほぼ無計画に配置され、中はベッドが並んでいるだけの簡素なものとされた。そこで子供達は、毎日の遊び＝自治を通じて、自由にふるまい、相互に関係を作り、そして必要な空間を必要に応じて形成していく、その意味で新しい世界のための「居住実践（Dwelling Practice）」を演じたのである。それは多くのフランス人にとって忘れられない経験として、成人後の社会生活に少なからぬ影響を与えた。

IMAGINATIONの部において、例えばファン・デン・ホイフェル（Charles van den Heuvel）は、独自のダイアグラムであるムンダネウムを通じて社会システムを可視化しようとしたポール・オトレの「世界都市（the World City）」論と「世界社会（the World Society）」論をとりあげる。平和運動家でもあったオトレの都市論・社会論が従来の空想的なユートピア論と決定的に異なったのは、行政・組織・建築・哲学の広きに渡る実現戦略を描き切っていた点であったことを述べている。

筑波大学　松原康介・抄

建築歴史・意匠

UDC：72.03

柱の言語

Gabriele Morolli：*La lingua delle colonne*, EDIFIR - Edizioni Firenze, 2013, p. 293

――抄録者注

本書は、古典主義建築のオーダーに関する研究書である。

本書の目次は次の通りである：1章　形と言語/2章　ウィトルウィウスと「建築論」におけるギリシアとイタリアのオーダーの原論/3章　アルベルティのオーダー /4章　アントニオ・ダ・サンガッロ・イル・ジョーヴァネ/5章　ヴィニョーラと「規則の花」/6章　木の心。ここにみられる構成からわかるように、本書はオーダーの基本的な語彙や構成に始まり、ウィトルウィウス、アルベルティ、アントニオ・ダ・サンガッロ・イル・ジョーヴァネ、ヴィニョーラの具体的な著作について順に論じられ、最後に、かつての木造建築との関連性について考察される。本稿ではこの最終章を抄録する。

古典主義建築の意匠は木造だった姿の名残を留めており、細部の形からは木造の構造や材の具体的なおさまりが読み取れる。とはいえ、木造から石造へは、ただそのままに姿が模倣されたわけではない。著者はその形態を詳細に観察し、各要素の意匠が持つ意味や、模倣における論理や美学を読み取ろうとする。その過程では、ウィトルウィウスの著作、木造建築の原理、大工道具の特性など、様々な観点から考察され、その点において、たとえばG・ハーシーがもっぱら語彙や供儀に関する考察を中心として「失われた意味」を明らかにしようとしたのとは異なる。また、木造建築の論理は、石造としての建築の美と必ずしも両立せず、一部の形には変更が加えられ、それは後年に論争の要因にもなったが、本書の立場は、それらの議論に深入りするものではなく、あくまでもオーダーのデザインについて多角的な観点から解説することにある。

著者には、古代及びルネサンスの建築理論書や古典主義建築オー

ダーについての多数の著書があり、本書はこれまでの研究の集大成と言える。巻末にはルネサンス建築の59点に及ぶオーダーの具体例について、大きなカラー写真と図解ともに詳細な解説が付され、充実した一冊となっている。

——抄録

芸術の模倣の原則とは、自然を単に機械的に模倣するのではなく、理想的な美を自然の中から見いだすというものだ。この方法は、絵画や彫刻ではうまく機能していたが、建築においては、自然から直接生まれたものが存在しないため、創造という行為が必要になる。

ウィトルウィウスも述べるように、石造のギリシア神殿のデザインからは、かつての木造建築の姿が推測できる。たとえば、石造の柱の下部には、強い荷重による破壊を防ぐために金属の輪が巻かれていた形状が残る。細部を見ると、ドリスのムトゥルスは、エトルリアの言語に由来し木造建築の名残が見られ、勾配があるため、水平なトリグリフより材を固定させるための突起の数が多い。一方、イオニアのデンティルが水平なのは、雨の少ない地方を起源とすることから説明できる。

ところで、トリグリフが横架材の先端であるならば、本来は側面にしか見られないはずだ。ところが、ギリシアでは、正面と側面の形式を同質なデザインにしようという美観的目的で、神殿の正面にもトリグリフがつけられ、ピラネージはこれを厳しく批判した。というのは、当時、グリーク・リバイバルの動きによって古代ローマの権威はギリシアに奪われようとしていたが、このトリグリフの扱いは、形態と機能が一致する模範と考えられていたギリシア建築にも、偽りのデザインが存在したことの証拠になるからだ。

ただし、形態に関する二重の思考自体は古代からあり、ウィトルウィウスも＜quod significatur＞と＜quod significat＞、すなわち、現実の建設現場に由来する形の知識と、形に内在する本質的な理由という、異なる二種類の意味について言及している。

木造から石造への変化における、創造的な模倣の形跡は、柱や梁という大きな構造だけではなく、アーキトレーヴやフリーズや、それらの構成要素であるトリグリフやムトゥルスのレベル、さらに、細部の繰型にまで残されており、また、各部の形状からは鋸や鑿といった大工道具の痕跡も見いだせる。木造の記憶は、石に刻まれることによって凍結され、永遠性へと引き渡された。

横浜国立大学　菅野裕子・抄

建築書店 Archi Books

会員サービス

建築書店では、会員サービスの一環として、本会会員の方は、直営出版物＊を会員特価（定価の10%割引）でご購入いただけます。また、本会発行書籍・資料以外の一般の書籍につきましては、本会会員の方にはポイントカードを発行しており、1,000円ご購入ごとにスタンプ1個捺印し、20個たまりましたら1,000円の割引券としてご利用いただけるようになっています。

なお、遠方の方には、建築学会発行書籍の郵送（会員の方は会員特価＋送料無料）も行っておりますので、本会ホームページ「出版図書」よりぜひご利用ください。

Photo by Mamoru Ishiguro

＊「直営出版物」とは、本会が出版元となり一般の書店にて定価を付けて販売する書籍を指し、シンポジウム等の資料や論文集、建築雑誌はこれに該当しません。また、「民間（旧四会）連合協定　工事請負契約約款」もこれに含まれませんのでご注意ください。

問合せ
日本建築学会　建築書店 Archi Books
〒108-8414 東京都港区芝 5-26-20　TEL03-3456-2018　FAX03-4334-7200
E-mail：hanpu@aij.or.jp　営業時間：9:30 ～ 17:30　定休日：土曜・日曜・祝日

詳細 http://www.aij.or.jp/jpn/books/kounyu.htm